

【令和3年度大川美術館企画展】

松本竣介《街》と 昭和モダン

—糖業協会と大川美術館のコレクションによる—

開催要項

1. 概要

公益社団法人糖業協会の近代洋画コレクション 61点と公益財団法人大川美術館の松本竣介《街》(1938年)をはじめとするコレクション 60点、計 120点によって、「昭和モダン」をテーマに構成した展覧会です。戦争と平和の激動の「昭和」の時代を、清新なイメージを求めた「モダン」の視点から、松本竣介「街」を起点に多彩な絵画によってたどります。

【展示構成】(予定)

第1章-1 自然をながめる—海と山

近代以降、道や鉄道の整備とともに画家たちは自然の風景を求め出かけて描くようになりました。藤島武二、金山平三、中川一政らによる海や山の表現に注目します。

第1章-2 自然をながめる—くつろぎの庭

移動をともない眺められた自然に対し、牧野虎雄や木村荘八、須田国太郎、山口薫らはしばしば自身の庭を題材に描きました。ごく身近な自然にそそいだ画家の眼差しを通じて、彼らがいかに自然をながめてきたのかを探ります。

第2章-1 テーブルの上の物語—花の彩り

近代の洋画家たちが探求してきた静物画の魅力を「花」を糸口に読み解きます。里見勝蔵、林武、三岸節子ら。

第2章-2 テーブルの上の物語—静物のささやき

「静物画」にみる画家たちの個性をご覧ください。熊谷守一、森芳雄、笠井誠一ら。

第3章-1 松本竣介—街

松本竣介《街》を中軸にすえて、近代の画家たちが描いた異国の「街」を網羅的に見渡します。梅原龍三郎、野口弥太郎、荻須高德ら。

第3章-2 松本竣介—モダンガール


松本竣介は、さまざまな装いの女性像を描きました。竣介がとらえた多彩なモダンガールを起点として、東郷青児、小磯良平、藤田嗣治ら魅力溢れる女性像を紹介。

第4章 人の形—肖像画から人間像へ

西洋の絵画の影響を受けつつも、新たな人物表現を展開した画家たちをとりあげます。理想や憧れ、内面表現としての「人」のかたちを見渡します。井上長三郎、麻生三郎、鶴岡政男、浜田知明ら。

第5章 まだ見ていない「かたち」— 幻想と抽象

昭和の時代のさまざまな美術の動向に着目しつつ、時代の移り変わりとともに展開した多様な美術表現を紹介します。三岸好太郎、オノサト・トシノブ、斎藤義重ら。

2. 主催：公益財団法人 大川美術館
3. 協力：公益社団法人 糖業協会
4. 協賛：  桐生商工会議所
5. 後援：群馬県教育委員会、桐生市教育委員会、上毛新聞社、桐生タイムス社、光ネット株式会社、FM 桐生
6. 会期：2021(令和3)年10月16日(土)－12月12日(日)
休館日：月曜日
7. 会場：大川美術館 展示室1、2、3、4
〒376-0043 群馬県桐生市小曾根町3-69 tel.0277-46-3300
8. 観覧料：一般1000円、大高生600円、中小生300円
9. 同時開催：
 - ・描かれた桐生の「昭和」(展示室5)
大川美術館コレクションによる桐生ゆかりの画家が描いた「昭和」を、戦前の写真資料とともにご覧いただけます。
協力：桐生歴史文化資料館

【出品作家】

牧島要一、オノサト・トシノブ、石井壬子夫、
台伸八、笠木實、宮地佑治、渡邊保

笠木實《あつ子ちゃんとももちゃん》1939年



- ・石内都 — 「はるかなる間」と「上州」より(展示室6)
当館が所蔵する写真家・石内都の最初期の作品「はるかなる間」(1976年)、「上州」(1982年)のシリーズから紹介します。

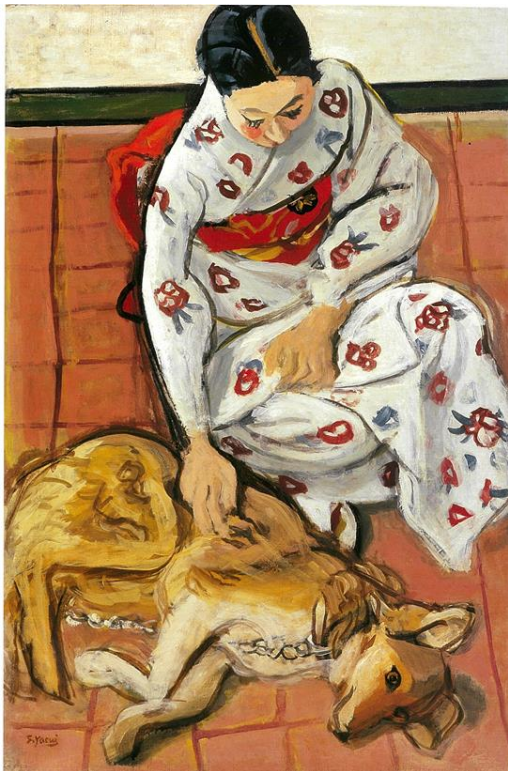
【出品作品より】



松本竣介《街》1938年 大川美術館蔵



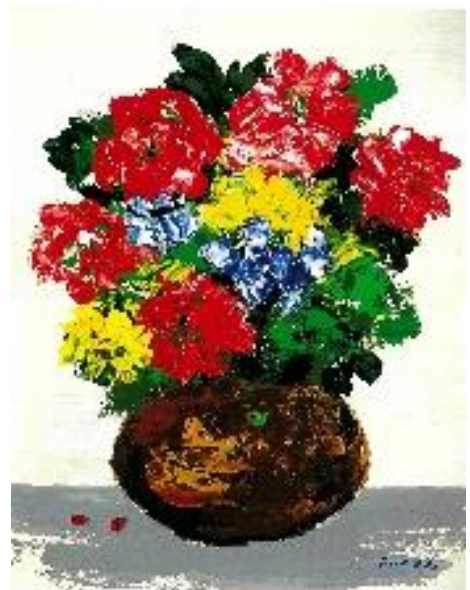
東郷青児《羊飼》1935年 糖業協会蔵



安井曾太郎《女と犬》1940年 糖業協会蔵



曾宮一念《冬日》1939年 糖業協会蔵



福沢一郎《花とてんとう虫》1974年 糖業協会蔵